



京浜事業所 環境報告書

2018年度版



目次

ごあいさつ	2
京浜事業所の概要	2
製品紹介	3
環境保全活動	
環境マネジメントシステム	6
環境保全基本指針	6
環境保全体制	7
環境目的・目標	7
製品における環境配慮	
環境調和型製品の提供	8
事業所における環境配慮	
京浜事業所の環境負荷	9
施設管理／常時監視体制	10
地球温暖化防止（省エネルギー活動）	11
化学物質の排出量削減	12
資源の有効活用（廃棄物削減）	13
全員活動・地域との共生、コミュニケーション	
従業員の啓蒙活動／異常事態想定訓練／環境月間	14
外部コミュニケーション	15
生物多様性の取り組み	16

報告対象範囲

本報告書の記載範囲は、（京浜）地域に所在する組織、（株）東芝から分離した法人（以下、構内関係会社）及び（株）東芝以外の法人（以下、構内駐在会社）で働くまたは組織のために働くすべての人が担当する業務活動、製品、サービスとします。

ごあいさつ



環境保全責任者
京浜事業所長

柴垣 徹

未曾有の大災害となった東日本大震災以降、7年半がたった現在も東芝グループは総力を挙げて復旧・復興支援に取り組んでいます。私たち東芝エネルギーシステムズ(株)京浜事業所でも、福島第一原子力発電所の炉内調査技術開発を支援し、廃炉技術開発に向けた貢献を続けています。

また、震災以降、私たちを取り巻くエネルギー供給情報は大きく変化し、私たちの日常生活や事業活動に深刻な影響を与えました。このような状況下で、私たちは節電の意識を高め、身近な工夫から行動することで、節電を促進しております。東芝アクションプランに基づいて環境保全に関する中期・短期的な目標値を定め、

地球温暖化の防止、資源の有効活用、化学物質の排出量削減など事業活動の中での環境負荷の低減に取り組んでいます。

さて、エネルギー機器を製造する私たち東芝京浜事業所は、今後ますます需要の増えるエネルギーの安定供給と地球温暖化の防止との両立をめざし、事業活動に取り組んでいます。

火力発電機器において、エネルギー効率の優れた製品を開発して世界中のお客様にお届けすることで化石燃料の節約やCO₂の削減に貢献し、また、CO₂を排出せずに発電ができる地熱発電や水力発電機器等の性能を向上させることで、エネルギー供給に伴うCO₂発生量全体の抑制に貢献します。

環境負荷の少ない製品の研究・開発に注力することつまり、私たちの本来業務がそのまま環境負荷の低減につながっていると言えます。

自分たちの製品が世界のCO₂削減に少なからず貢献することを自覚し、責任と誇りを持って事業活動を進めてまいります。

京浜事業所の概要

- ◎ 設立年月 1925年(大正14年)8月
- ◎ 所在地 横浜市鶴見区末広町2丁目4番地
- ◎ 敷地面積 510千m² 延床面積 358千m²
- ◎ 従業員数 約2,400人



【入舟分工場】：工業地域
横浜市鶴見区寛政町20番1号
敷地面積63千m² 延床面積28千m²



【タービン工場】：工業専用地域
横浜市鶴見区末広町1丁目9番地
敷地面積87千m² 延床面積66千m²



【本工場】：工業専用地域
横浜市鶴見区末広町2丁目4番地
敷地面積360千m² 延床面積264千m²

製品紹介

● 火力発電機器

火力発電所では化石燃料を燃やして蒸気を発生させ、その蒸気の中で蒸気タービン発電機を回して電力を発生させます。この火力発電所で使用する蒸気タービン発電機と熱交換器を設計、製造しています。また最近ではエネルギーの有効利用として、ガスタービンを回して発電し、そこから排出された高温の排ガスを再利用して蒸気を発生させ、その蒸気の中で蒸気タービン発電機を回して発電するコンバインドサイクルプラントが数多く建設されています。これらの火力発電機器の効率を上げる事が直接CO₂の排出量削減に繋がるため、技術開発による性能向上に注力しています。

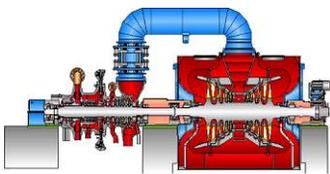


火力発電所

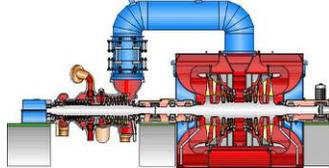
● 蒸気タービン・ガスタービン

蒸気タービンのタイプ (主要なもの)

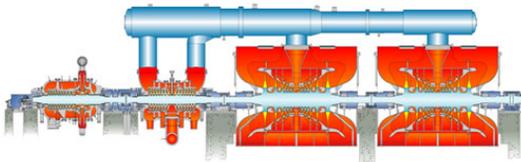
抽気復水タービン



混圧タービン



再熱(再生)復水タービン



H型コンバインドサイクル



蒸気タービン

発電機

ガスタービン

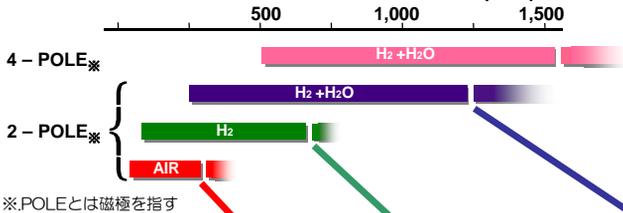
低圧ロータ



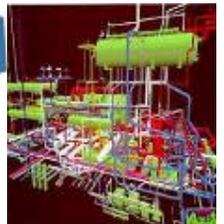
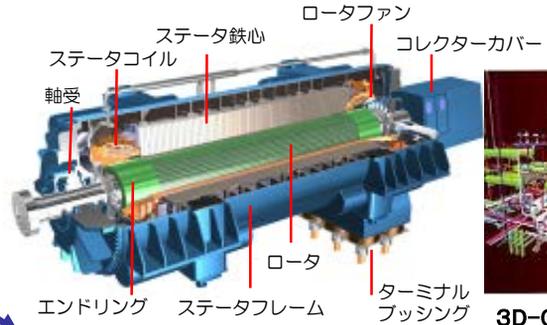
● タービン発電機・復水器他

タービン発電機の冷却方式と単機容量

CAPACITY (MVA)



発電機の構造



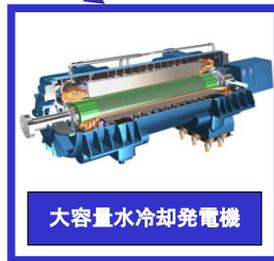
3D-CAD 配管図



空気冷却発電機



水素冷却発電機



大容量水冷却発電機



給水加熱器



復水器

● 原子力発電機器

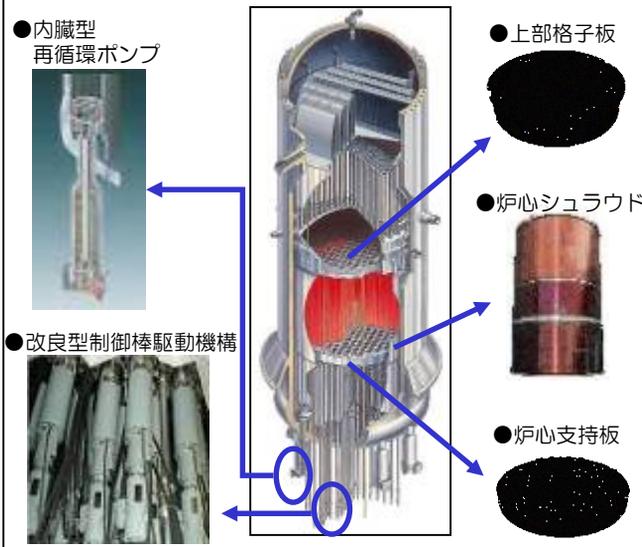
原子力発電は、ウラン燃料の核分裂で得られる熱を利用して蒸気を発生させ、その力で発電機を回して電力を発生させます。

原子力発電所には沸騰水型と加圧水型があり、当工場では、沸騰水型を主体に両型式の原子炉内構造物および出力を制御するための機器などの設計・製造・メンテナンスをしています。

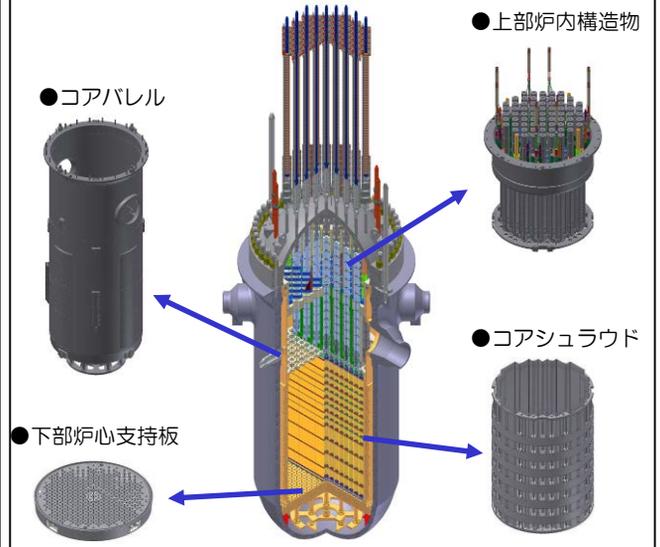


原子力発電所

● 原子炉構造：ABWR



● PWR



● 炉内保全技術

- 炉内点検 遠隔操作（ロボット）による検査技術



水中小形ビーグル



フラットビーグル

- 予防・事後保全 遠隔操作による補修技術



レーザーピーニング レーザ溶接ヘッド

- 統合保全 世界初のシュラウド交換技術



シュラウドの交換

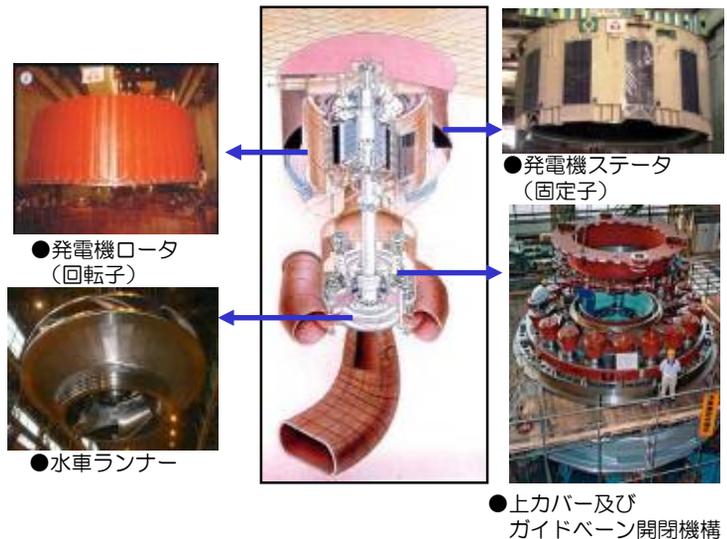
● 水力発電機器

水力発電では水の落差によるエネルギーを利用して電力を発生させる、CO₂を発生させない自然エネルギーです。電力使用量の変動に対応しやすいので負荷調整用としても利用されます。この水力発電所の水車、発電機及びその制御機器の設計、製造をし、さらなる効率向上に注力しています。



水力発電所

● 水車及び水車発電機



● 新エネルギー：超電導機器

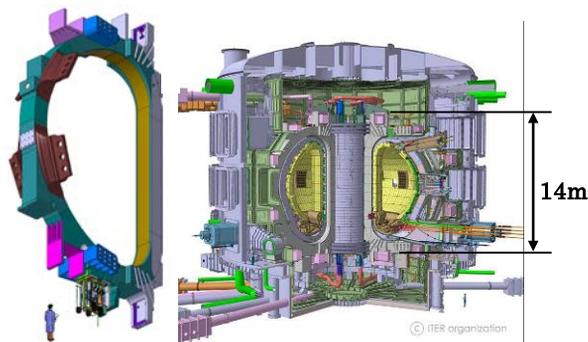
TFコイル（国際熱核融合実験炉（ITER）向け）

核融合炉は未来の無限エネルギー源として期待されています。

国際熱核融合実験炉（ITER）は発電技術実証のため、国際協力のもとフランスに建設予定の核融合実験炉です。

主要機器の一つにトロイダル磁場（TF）コイルがあり、その製造を京浜事業所内で進めています。

TFコイルは、高さ16.5m、幅9m、重さ300トンの世界最大級の超伝導コイルです。



ITER機構

提供（独）日本原子力研究開発機構

大型低温重力波望遠鏡（KAGRA）

KAGRAはレーザー干渉計により重力波を観測する東京大学宇宙線研究所殿の装置です。

重力波の検出感度を高めるためにはレーザーを反射させるミラーの熱雑音低減が必要です。

京浜事業所では極低温、超高真空機器の製造技術を駆使し、ミラーを極低温に保持するクライオスタット4台を製作しました。



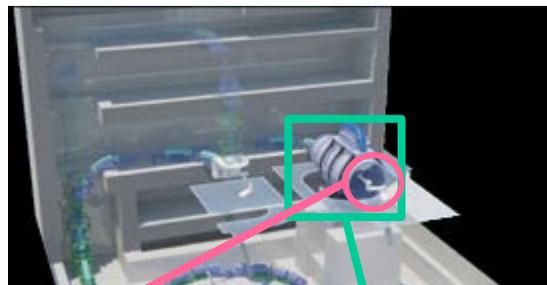
大型低温重力波望遠鏡（KAGRA）に設置したクライオスタット
〔©ICRR/KEK〕

重粒子線治療装置（HIMAC、i-ROCK他）

東芝は自動位置決め技術、高速スキャン照射技術、回転ガントリー等により世界最高水準のがん治療を支えています。

放射線医学総合研究所納入の回転ガントリーは重粒子線治療装置として国内初、超伝導電磁石の採用は世界初のもです。

当社の手掛ける重粒子線照射装置はグッドデザイン賞（金賞）を受賞しています。



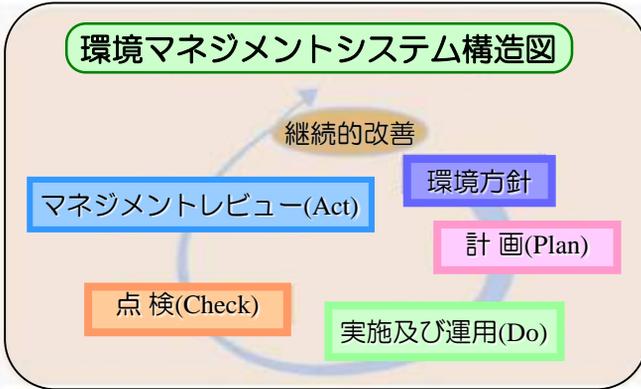
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所様提供

環境保全活動

環境マネジメントシステム

エネルギーシステムソリューション社では、2007年2月より本社から事業所まで統合した環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001の認証を取得しました。

京浜事業所も事業所として取得していたISO14001から、エネルギーシステムソリューション社全体の環境マネジメントシステムに移行し、ISO14001規格に基づく環境マネジメントシステムのサイクル(Plan-Do-Check-Act)により環境保全活動の継続的改善を図っております。



京浜事業所環境マネジメントの歴史

- 1997年 8月：ISO14001 認証取得
- 2005年 8月：新規格ISO14001:2004認証取得
- 2006年 8月：3回目の更新審査に合格
- 2007年 2月：旧電力システム社環境マネジメントシステムへ統合
- 2009年 12月：更新審査に合格
- 2010年 12月：一年次サーベイランス受査
- 2011年 12月：二年次サーベイランス受査
- 2012年 12月：更新審査に合格
- 2013年 12月：一年次サーベイランス受査
- 2014年 12月：二年次サーベイランス受査
- 2015年 2月：再認証審査及び移行審査に合格
- 2016年 12月：一年次サーベイランス受査
- 2017年 12月：二年次サーベイランス受査



ISO14001登録証

ISO：International Organization for Standardization 国際標準化機構

ISO14001の認証は審査登録機関のビューローベリタスジャパン(株)による更認証審査を受査、3年毎に更新します。

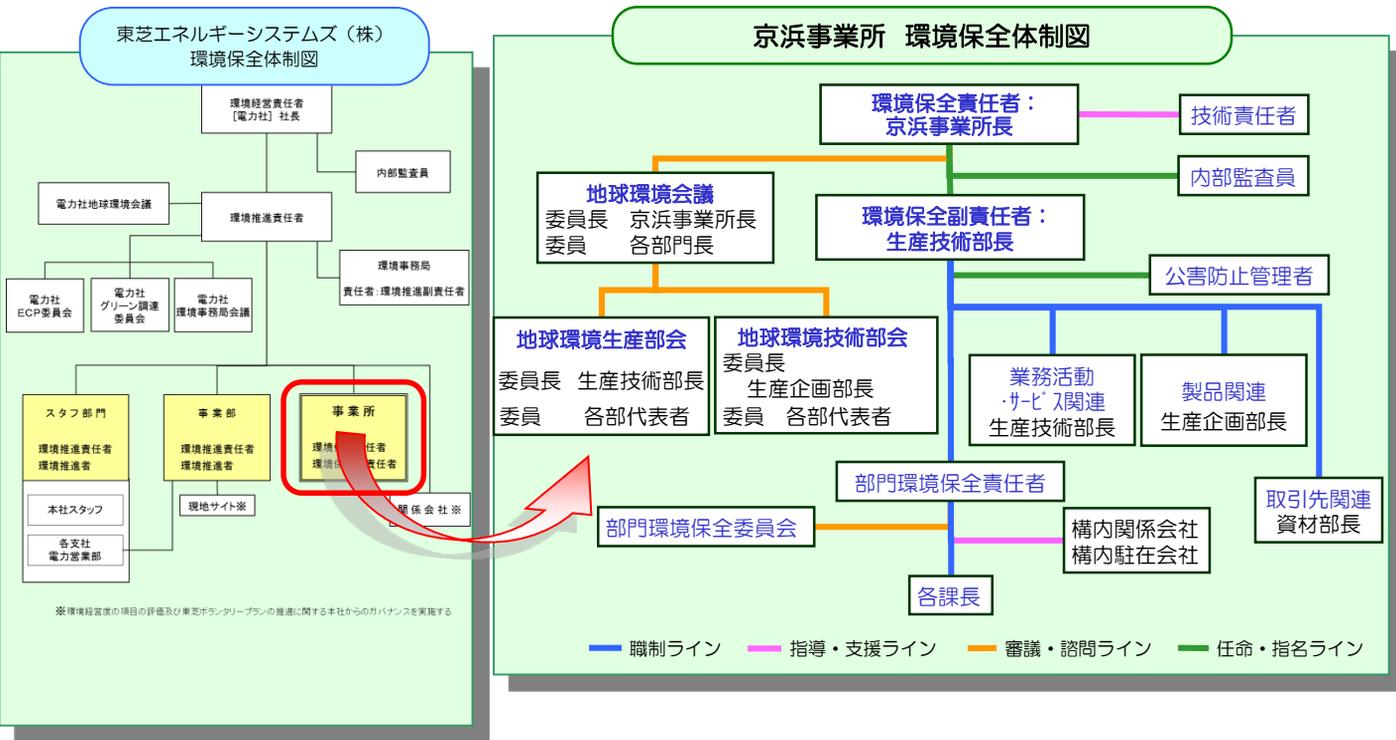
東芝エネルギーシステムズ(株)京浜事業所 環境基本指針

京浜事業所は、東芝エネルギーシステムズ(株)環境経営基本方針に基づき、低炭素社会に貢献するエネルギー機器事業の中核工場として、クリーンで高効率のエネルギー機器の提供、環境調和型製品の提供及び東京湾に面して立地している周辺環境の保全に努め、持続可能な社会へ貢献します。

1. 環境への取り組みを、経営の最重要課題の一つとして位置付け、経済と調和させた環境活動を推進します。
2. 事業活動に関する環境側面について、生物多様性の保全を含む環境影響を評価し、環境負荷の低減や汚染の防止を含めた環境パフォーマンス向上のための環境マネジメントシステムの継続的改善に取り組みます。
 - (1) 水質汚濁と大気汚染の防止
 - (2) 化学物質の適正な管理と環境負荷の小さい物質への代替化
 - (3) 廃木材、廃油など廃棄物の3R (Reduce, Reuse, Recycle)の推進
 - (4) 電力、都市ガスの消費抑制を主体とした省エネルギーの推進とCO2排出量の低減
 - (5) グリーン調達による、環境負荷の小さい部品、材料の購入の推進
3. 製品の開発・設計段階で環境影響評価を行い、環境負荷の低減に配慮した環境調和型製品を提供します。
 - (1) 地球温暖化防止、省エネルギー化、省資源化に寄与する高効率で軽量、長寿命な製品の開発
 - (2) 有害物質を含まず再資源化が容易な原材料の採用
4. 環境側面に関する法令等、指針及び自主基準などを順守すると共に、リスクマネジメントを強化し、環境事故の未然防止に取り組みます。
5. 京浜事業所で働くまたは京浜事業所のために働くすべての人及びその家族の環境認識をより高め、全員で環境活動に取り組むと共に、取引先や近隣企業を含めた地域・社会との協調を図り、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。

● 環境保全体制

京浜事業所長（環境保全責任者）及び生産技術部長（環境保全副責任者）のもと①製品・技術、②業務活動・サービス、③取引先の別にそれぞれ部環境保全責任者を設け運営しています。また、地球環境会議や地球環境生産部会及び地球環境技術部会を審議・諮問機関として活動しています。



● 環境目標

京浜事業所では、東芝エネルギーシステムズ（株）の環境方針、目標に加え、事業所の環境影響評価による環境要素に基づき、次のような環境目標（抜粋）を策定し、独自の目標を定めて環境保全活動を推進しています。

指標		2016年度実績	2017年度実績
環境調和型製品の提供	環境負荷低減に向けた製品開発(2017年度より)	件	19
	各機種Factor-T算出	件	9
環境経営の改善	ISO14001外部審査及び内部監査の実施	-	各1回/年
	生物多様性保全の促進	-	ビオトープ活用
地球温暖化の防止	エネルギー起源CO2排出量原単位の削減	t-CO2/億円	29
	温室効果ガス排出量の削減	t-CO2	395
化学物質の排出量削減	化学物質取扱量原単位の削減	kg/億円	53.4
	化学物質排出量の削減	kg	4,893
資源の有効活用	排出物総発生量原単位の維持	t/億円	7.5
	廃棄物量の削減	kg	2,129

製品における環境配慮

● 環境調和型製品の提供

エネルギー機器を生産している京浜事業所では、より環境負荷の少ない製品の研究・開発に力を注いでいます。

- 火力発電機器の効率を向上させることで、化石燃料の消費とCO₂発生を抑制。
- CO₂を排出しない原子力発電機器や水力発電機器および地熱発電の性能向上。
- 製品の長寿命化、コンパクト化による省資源化。
- 有害化学物質の使用廃止。

● 環境調和型製品事例

今回は2010年度電気科学技術奨励賞／文部科学大臣奨励賞を受賞した火力発電プラント向けのタービン発電機を紹介します。

● 超高効率・大容量の水素間接冷却発電機の開発 ●

これまで大容量発電機では構造が複雑な水直接冷却方式を採用していました。今回、より単純な水素間接冷却方式を採用した大容量発電機の開発に成功しました。



タービン発電機
670MVA(60万kW)

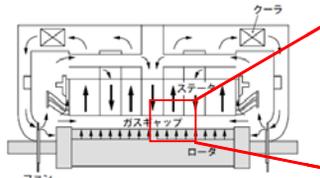
技術課題

- 発電機のコイルには電気が流れるので、**発熱**する
 - 電圧が発生するのでコイルには**絶縁**が必要
 - 絶縁物は**耐熱温度に制限**があるので**冷却**が必要
- 大容量発電機を効率の良いシンプルな冷却方式で実現する**

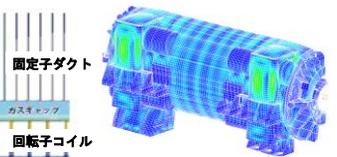
適用した技術

冷却性能の向上

- ① 絶縁の熱伝導率の向上
- ② 冷却ガス流量配分の最適化
- ③ 冷却ガス圧力の上昇



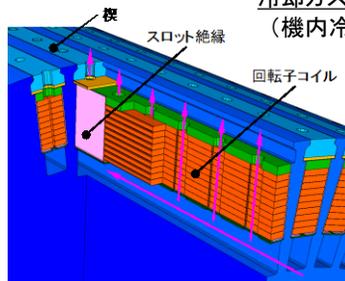
冷却ガス流量配分の最適化
(機内冷却ガス通風解析)



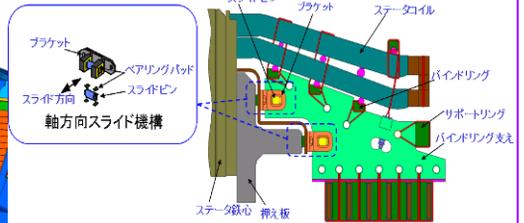
水素ガス圧力の上昇
(フレーム強度解析)

発生損失の低減

- ④ シンプルなロータ冷却方式の採用



シンプルなロータ冷却方式の採用



実績あるステータコイル固定構造の採用

大型機に適した構造

- ⑤ 実績あるステータコイル固定構造の採用

- **水素間接冷却方式の発電機として当時としては世界最大容量を達成**
 - ・ 60Hz-670MVA機
- **設備の省略・・・冷却水処理装置を省略**
 - ・ 初期設備費の低減
 - ・ 運転保守費の低減
- **効率の向上・・・99.1%を達成** (従来の水直接冷却方式発電機効率率は98.9%)

石炭使用量 約 4,700トン/年 削減

CO₂排出量 約 14,000トン/年 削減

事業所における環境配慮

● 京浜事業所の環境負荷

京浜事業所の事業活動に伴う環境負荷の主なものは、エネルギー使用、用水の使用、化学物質の使用、大気へのCO₂・排ガス等の排出、海域への排水放流、廃棄物の排出などがあります。私たちは、これらの環境負荷を把握し、可能な限り低減するための諸施策を実施することにより、環境に優しい、より良い製品作りを目指しています。

下図は2017年度の当事業所における環境負荷を示します。

京浜事業所の環境負荷2017年度実績

エネルギー

電力	3,133 万kWh/年
都市ガス	4,134 千m ³ /年
LPG	6 t/年
ガソリン	10.8 KL/年
軽油	1.05 KL/年

用水

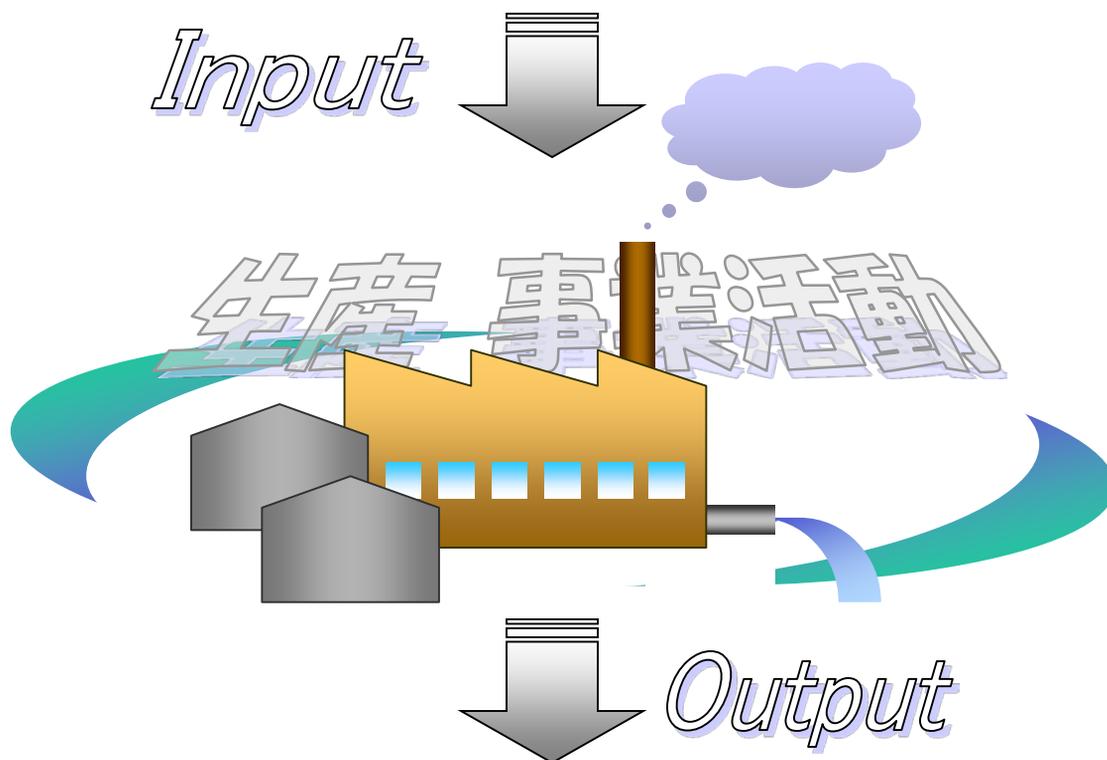
市水（上水）	149,314 t/年
工業用水	409,428 t/年

化学物質

規制化学物質総量 ^{※1}	50 種
	52.0 t/年
うち PRTR法対象物質	13 種
	6.8 t/年

資源

鉄	91,908 t/年
その他金属類	13,459 t/年
非金属	3,467 t/年
その他	6,592 t/年



大気

CO ₂ （エネルギー起源）	25,922 t -CO ₂ /年
温室効果ガス	344 t -CO ₂ /年

排水

排水量 ^{※2}	503,038 t/年
-------------------	-------------

排ガス

NO _x	1,649 kg/年
ばいじん	464kg/年

廃棄物

総発生量 ^{※3}	5,196 t/年
廃棄物	1,769 t/年
金属類	3,427 t/年

※1 規制化学物質：東芝第4次環境アクションプランで定める552種の化学物質のうち、当事業所で使用しているもの

※2 排水量：工場受水量の約90%で想定

※3 総排出量：金属、紙類等リサイクルできる有価植物も含めた排出物の総量

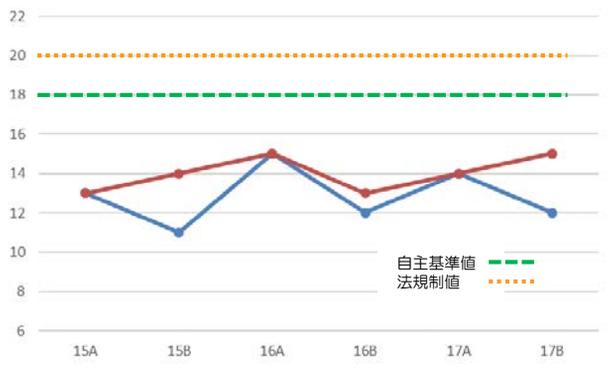
施設管理（排水・排ガス等関連）

京浜事業所は、法令に基づいて排水や排ガスの定期測定を実施しています。また、2006年3月に横浜市と環境保全協定を締結し、環境への負荷を軽減するために事業者が行うべき取り組みについて合意事項を定め、法規制値を守るだけでなく、さらに厳しい管理を実施しております。

トレンド事例



排水口pH（15-17年度実績）



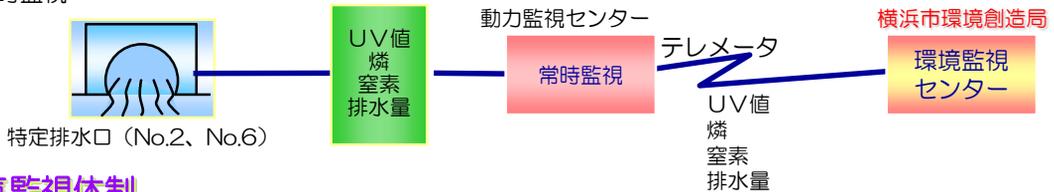
ガスエンジンNOx（15-17年度実績）

常時監視体制

京浜事業所では、定期分析のほかに、特定施設からの排水と生活雑排水の水質及び煤煙発生施設からの排ガスを常時監視し、リアルタイムで横浜市環境創造局に送信しています。

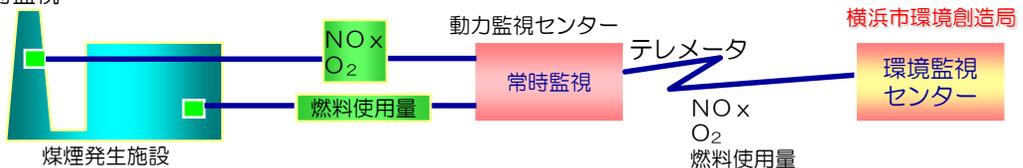
水質監視体制

排水の常時監視



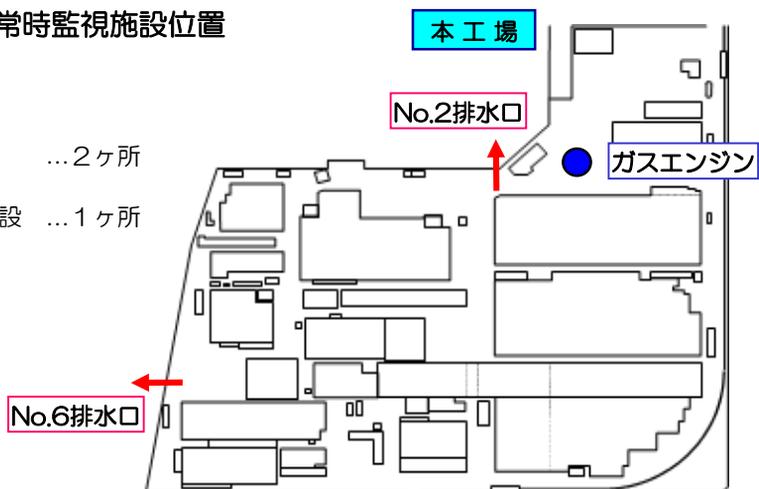
大気監視体制

排ガスの常時監視



京浜事業所の常時監視施設位置

- ← 特定排水口 ... 2ヶ所
- 煤煙発生施設 ... 1ヶ所

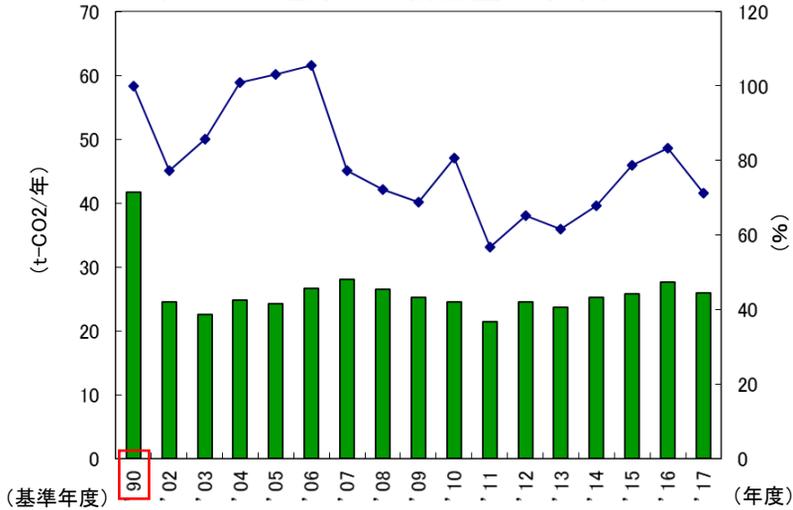


●地球温暖化防止（省エネルギー活動）

京浜事業所は、エネルギー政策を重点課題として、生産活動において積極的な省エネ投資をしています。省エネ機器の導入、LED照明への切替え、高効率空調機への更新を進めています。また動力設備の効率運転、業務改善、省エネパトロール実施、待機電力の削減活動など運用面での改善も積極的に展開しています。

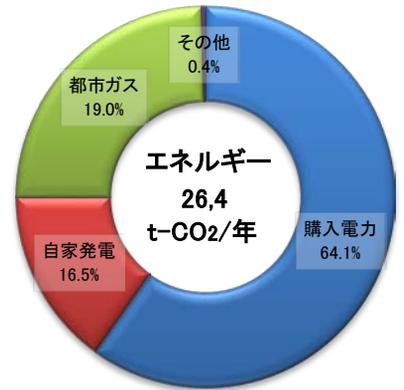
京浜事業所は、CO₂原単位排出量（CO₂ 排出量/生産高：単位 t-CO₂/億円）を管理指標とし、省エネに取り組んでいます。

●エネルギー起源CO₂排出量・原単位



京浜事業所エネルギー起源CO₂排出量・原単位

●エネルギーの内訳



京浜事業所 使用エネルギーの内訳 (2017年度)

●省エネ活動事例

設備投資による省エネ

●LED照明化

所内では製造エリア天井灯のLED照明化更新を積極的に進めてきました。今後は身近な蛍光灯や白熱灯にもLED照明の普及、更新を進めます。

●ボイラー更新及び運用改善

既存の小型貫流ボイラーの台数を減らすと同時に供給元を一箇所に集約させ、更に高効率ボイラーへ更新したことで、都市ガス消費量の削減に努めました。

●空調設備更新

老朽化している空調設備を高効率機種へ計画的に更新し、消費量電力を抑えるとともに職場環境改善に寄与し、作業効率アップも図りました。

業務改善による省エネ

●1号館執務従業員の意識向上

2014年度から国内外事業拠点とした設計、調達、工程管理、エンジニアリングなどの機能を集中させたビルを竣工しました。

このビルは最新の省エネ技術と設備を備え、エネルギー使用量のモニタリングや制御をBEMS^{※1}により行っていますが、そこでの省エネにもチャレンジしました。入居1年が経ったところで、執務従業員からアイデアや改善を募り、運用ルールを策定するなどし、意識向上を図りました。

※1. Building and Energy Management System の略で、ビル管理システムのこと。

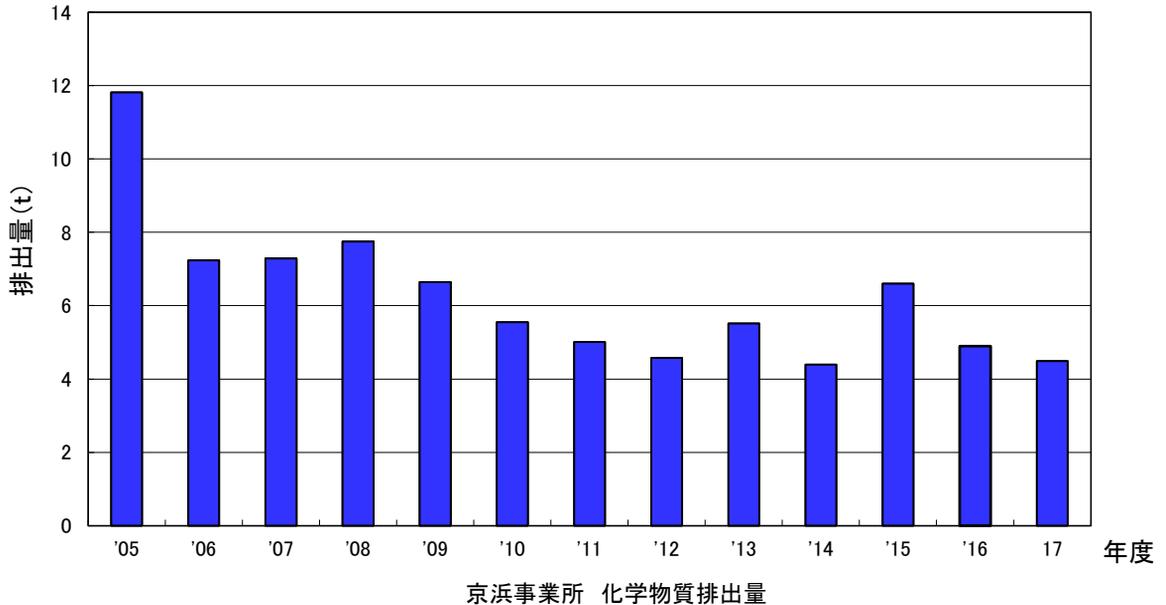


1号館

● 化学物質の排出量削減

京浜事業所では、東芝アクションプランで定める規制化学物質552物質中50物質を使用しています。中でもトルエン、アセトン、キシレンなどは塗装や洗浄に多く使用されています。

作業手順の改善や新しい塗料の開発、除去装置の設置により、化学物質の削減に取り組んでいます。



● 規制化学物質削減事例

地球環境を守る表面処理施設新設

京浜事業所では、今後の増産に対応するために、塗装する前に製品の表面の錆除去と凸凹にするブラスト室と塗装室から構成される新しい表面処理施設を設置しました。2009年度に工事が完了し、2010年度から稼働開始しました。

この施設は、作業者の労働安全を確保しつつ、地球環境を考慮した工夫がなされています。

塗装作業では、塗料に含まれるVOC ※ が発生するため、VOC除去装置を設置し、大気へのVOC排出を抑制しました。

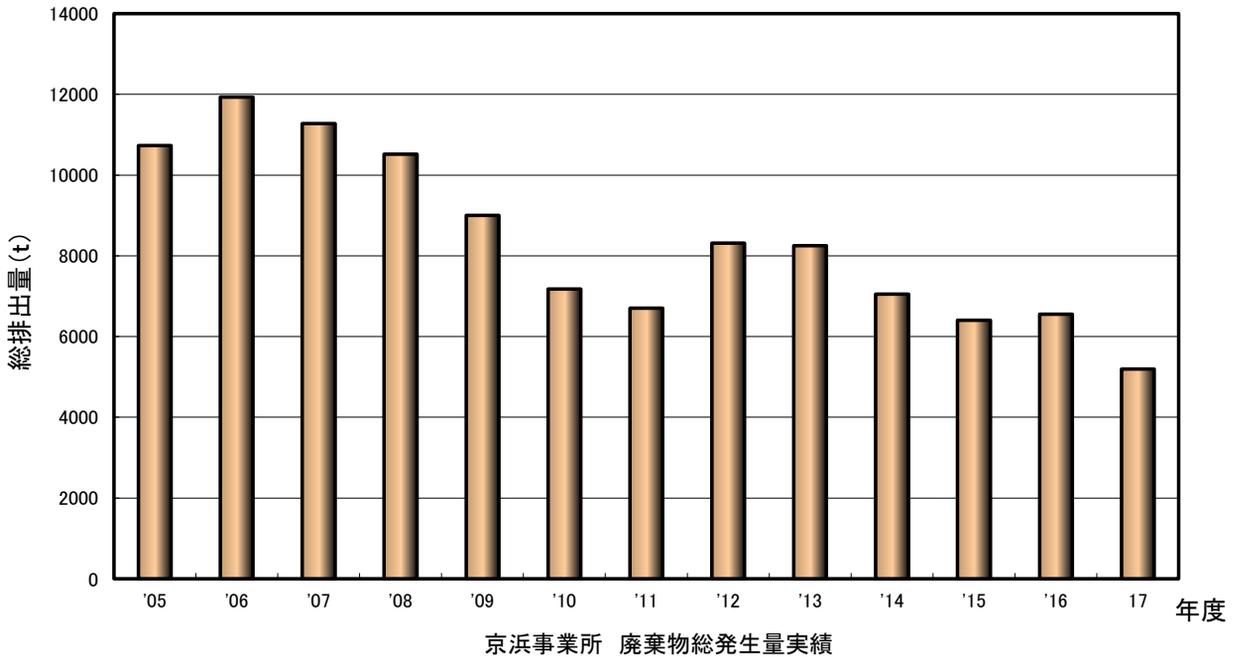


新表面処理施設

VOC : volatile organic compounds (揮発性有機化合物)
揮発性を有し、大気中で気体状となる有機化合物の総称。
反応性が高く、光化学オキシダントの原因物質でもある。

● 資源の有効活用（排出物削減）

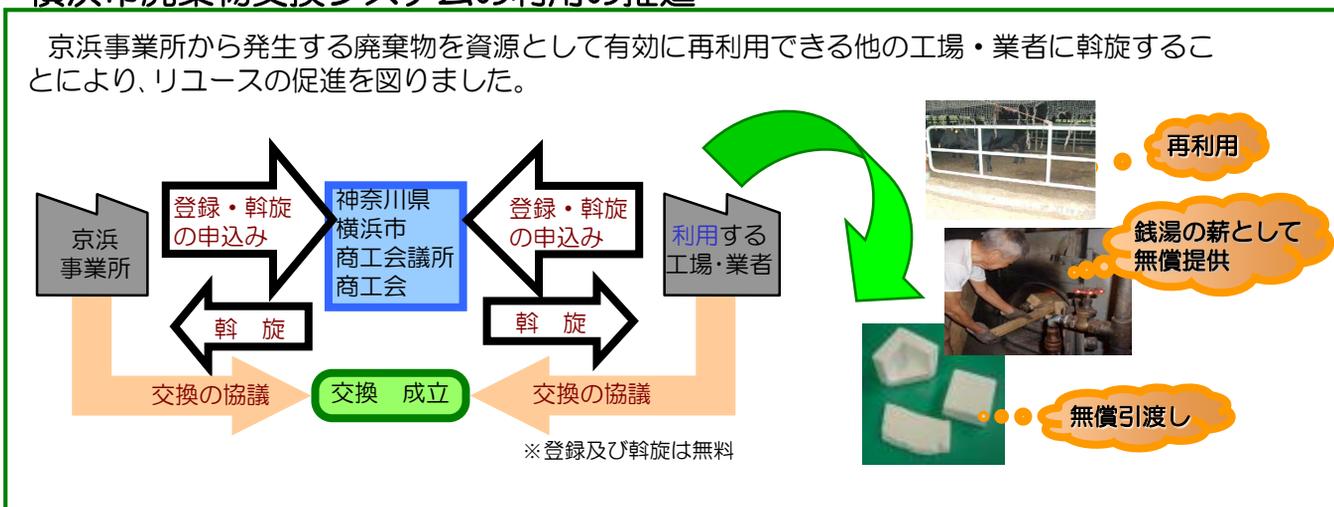
京浜事業所は、生産活動により発生する金属類、廃棄物等について排出量の削減と再資源化に取り組んできました。主な取り組み事項は、「① 分別徹底による再資源化の推進、② 横浜市廃棄物交換システムの活用の推進、③ 木材や発泡スチロールの MATERIAL リサイクル化、④ 木製パレットのリユース、⑤ 通い箱や簡易梱包によるリデュース」です。



● 資源の有効活用事例

横浜市廃棄物交換システムの利用の推進

京浜事業所から発生する廃棄物を資源として有効に再利用できる他の工場・業者に斡旋することにより、リユースの促進を図りました。



● 全員活動・地域との共生、コミュニケーション ●

● 従業員の啓蒙活動

● 環境教育

ISO14001に基づき、従業員全員（構内駐在業者を含む）を対象に環境教育を実施しています。環境教育の目的は、環境マネジメントシステムの理解と法律順守を徹底し、環境保全の重要性や、それぞれの業務が環境に与える影響を自覚すると共に、従事業務内容に応じた力量を確保することです。

● 従業員への情報発信

- ・社内情報共有サイトへの環境情報の掲示
- ・環境インフォメーションレター
東芝エネルギーシステムズ（株）の従業員に年4回配布し、従業員及びご家族の方に環境に対する取り組みを紹介しています。

● 異常事態想定訓練

異常事態想定訓練は、環境負荷が著しく高い施設に対し、起こりうる異常事態を想定し、その対処方法について標準化して実施しています。各部門で年度計画に沿って異常事態想定訓練を実施し、不具合を是正しながら、環境事故の未然防止に努めています。

毎年、環境負荷が特に高いとして定められた施設で異常事態想定訓練を実施すると共に、各部門で自主的に設定した施設・工程等でも訓練を行っています。



構内排水口油漏えい時の想定訓練

● 環境月間

6月の環境月間、10月の3R推進月間、2月の省エネルギー月間に合わせ、従業員の啓蒙活動や地域清掃ボランティアなど、様々な活動をしています。

● 節電活動の推進

- ・エア―漏れ点検・修理を実施
- ・夏季使用前のエアコン点検、フィルター清掃実施
- ・完全一斉定時間日、完全臨出なし日の徹底
- ・休日待機電力削減強化日の設定
- ・省エネパトロールの実施（不要照明、事務所・更衣室エアコンの適正使用のチェック）

● 事業所周辺の清掃

従業員の全員活動の一環として、6月（環境月間）に周辺地域の清掃ボランティアを実施しています。1994年より継続して通勤路の清掃を実施しており、2017年度も多くの方に参加していただき、地域の美化に努めました。

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017
参加人数	374	358	351	373	509	426



清掃ボランティアの参加人数

清掃ボランティアの様子

● 外部コミュニケーション

● 行政及び地域との交流

● 京浜臨海部緑地視察

横浜市環境創造局主体で京浜臨海部緑地視察が実施され、横浜市民有緑地整備で助成を受けた本工場及びタービン工場庭園緑地を視察頂きました。参加頂いた市民の方々からは、緑地の整備状況について様々なご意見を頂きました。引き続き、構内緑化の維持・整備に取り組んでいきます。



構内緑地の視察の様子

● 取引先との交流

● 主要取引先巡回

グリーン調達活動の一貫として、主要取引先を対象に巡回し、環境面での確認・チェックを実施し指導を行いました。

● 廃棄物処分業者の現地確認

京浜事業所から排出される廃棄物の処理業者に対し現地調査を実施し、適切に処理されていることを確認しました。



廃棄物処分業者の現地確認

● 海芝公園 ～ 海の上の駅 憩いの場所 ～

京浜事業所は敷地の一部を海芝公園として地域の方に開放しています。つばさ橋を望む海の上の駅としてとても魅力ある海芝浦駅を訪れた方に、電車発車時刻までの憩いの場を提供しています。

2006年に横浜市の『京浜の森づくり』に賛同し、地域への水際緑地の公開事業の一環として海芝公園の拡張を実施いたしました。（平成18年3月完成、同年5月公開）



京浜の森ロゴマーク



海芝公園の景色

● 生物多様性保全の取り組み ●

私たちの生活は、生物多様性を基盤としたさまざまな自然の恵みに支えられています。しかし、私たちの生活により急激に生物多様性が損なわれており、企業でも生物多様性の保全に取り組むことが求められています。京浜事業所でも生物多様性のための様々な活動をしています。

●希少な動植物の生息域外保全

東芝グループでは、生物多様性条約第9条に記載されている「生息域外保全（本来の生息地では存続できない生物を、生息地の外において人工増殖を図り、本来の生息地を再生した上で野生回復を図ろうとする方法）」に取り組んでいます。その一環として、京浜事業所でも構内の池を整備し、ホトケドジョウ（※）の飼育を開始しました。2017年度の生態調査でもホトケドジョウが確認でき、全て成魚で順調に生育していることが確認できました。

※ 水温が低く流れの緩やかな河川や湿地、水田等に生息する体長6cmほどの淡水魚。環境省レッドリスト（絶滅のおそれがある動植物のリスト）の絶滅危惧IB類（近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの）に分類。



ホトケドジョウ生態調査の様子

●トンボはどこまで飛ぶかフォーラムに参画

京浜事業所が所在する末広地区では、京浜臨海部の工場等の緑地が地域の環境に貢献していることを科学的に評価し、広く市民に知ってもらうことを目的とした「トンボはどこまで飛ぶかプロジェクト」を2003年より毎年行っています。

このプロジェクトを主催する「トンボはどこまで飛ぶかフォーラム」に私たち京浜事業所も2011年から参画し、市民、他企業、行政、専門家など様々な主体との協働による生物多様性の取り組みに携わっていきます。

2017年は市民ボランティアや行政職員、学生と共に従業員も参加してトンボの捕獲調査を実施しました。



トンボ捕獲調査の様子

東芝エネルギーシステムズ株式会社 京浜事業所

Toshiba Energy Systems & Solutions Corporation
Keihin Product Operations

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町二丁目4番地
TEL (045) 510-5016 (大代表)

2-4, Suehiro-cho, Tsurumi-ku, Yokohama 230-0045
Phone: +81-45-510-5016

<http://www.Toshiba-energy.com/>
